

学界消息

史学研究会関係

例会 四月二十八日(土)午後一時 楽友会館

諸蕃志の「毗舎耶」「談馬顔等國」について

木村 宏

ローマ元首政治の性格

浅香 正

オアシスをめぐる考古学上の諸問題

(幻灯使用)

岡崎 敏

例会 六月二日(土)午後一時

楽友会館

律令時代の墓地について

畠田 香融

日本考古学の近況

小林 行雄

特別例会 六月三十日(土)午前九時

京大文学部第一教室

シンポジウム『史学・地理学・考古学戦後

十年の回顧と今後の課題』

日本史

藤 直幹

地理学

門脇 慎二

松井 武敏

考古学

浮田 典良

水野 清一

東洋史

坪井 清足

西洋史

貝塚 茂樹

国史関係

河地 重造

報告要旨は次号に掲載予定

会田 雄次

田村 満穂

読史会新専攻生歓迎会、五月二日、東福寺本

坊において小葉田、赤松、柴田各教授以下

四五名が集つて歓談した。なお、新専攻生

は一七名、大学院修士過程は七名、博士過

程は三名である。

読史会五月例会、五月十二日(土)午後一時

五山派禅宗の発展に関する考察

藤岡 大拙

古代の海民組織

三浦 圭一

草創期の京都の蘭学について

山本 四郎

読史会春季旅行、六月九日(土)、小葉田・

赤松・柴田各教授、林屋・梅溪講師ら先輩、

学生五十一名はバスで近江路を巡回。今堀日

吉神社・永源寺・百濟寺・西明寺を経て午

後八時頃帰洛。永源寺における開山寂室元

光の遺偈、西明寺三重塔壁画など、数多くの

文化財は大いに一行の興味を惹いた。

読史会春季大会、六月十七日(土)京大楽友

会館

蘇峰の平民主義について

黒田 徹

「草人木」について

久田 和彦

近代に於ける罪惡の意識の系譜

田村 円澄

民権左派の思想

岩井 忠熊

長屋王の変について

直木孝次郎

アメリカにおける日本史研究

山口 光朔

近世初期の農村構造について

杉本 嘉八

伊勢田丸領山神村の場合

近世大阪に於ける伝法渡船経営

末中 哲夫

壬午に至る日韓貿易関係

杉井 六郎

遠江国質侶庄の相伝過程

堀池 春峰

院政と鳥羽離宮

村山 修一

閉会後、同会館において懇親会を開催、報

告者・教授らを変えて懇談し大いに盛会であつた。

大原歴史学会春季大会、六月二十四日(日)関

西大学

絶対主義形成期におけるブルジョア的発展

塩野 芳夫

田堵の成立

吉田 晶

古代の豪族について

直木孝次郎

読史会七月例会 七月十四日(土) 午後一時

中世的氏寺の近世的菩提寺化 竹田 聰洲

— 丹波佐々成庄天寧禪寺の場合 —

土佐藩における討幕派の形成 池田 敬正

東 洋 史 関 係

新専攻生・新大学院生歓迎会。五月四日(金)

宮崎・田村両教授をはじめ約三十名は、八瀬ケール前に集合し、比叡山ハイキングをかねて歓迎会を行った。なお今年の専攻生は六名、新大学院生修士課程三名、博士過程二名である。

新入生書庫見学、五月三十一日(木) 新入生一同は人文科学研究所本館の書庫を見学した。

東洋史研究会、五月十二日(土) 午後一時半より、十四巻四号の合評会を行った。なお席上、宮崎市定氏を会長に選んだ。

東洋史談話会例会、六月二十三日(土) 午後二時より、東洋史研究室において、六月例会を行った。

「元代の土と吏について」 勝藤 猛

西 洋 史 関 係

新三回生歓迎会 四月二八日(土)

陽春四月西洋史専攻課程には新たに次の

諸氏を迎え、「京園」に多数の参会者を之て薄暮まで談笑の中にその意義ある門出を祝つた。

新三回生、新村祐一郎、望田幸男、伊藤雄文、森田幸史、真継明子、吉田幹夫、石川明、内海祐治、以上八名。

第三回西洋史読書会春季大会

昨年度から秋の大会との関係も考え、広く同窓生の親睦と討論の場をつくる意味からシンポジオン形式をとつた春季大会は本年度は以下の次第で行われた。論題は委員会において審議を重ね、結果はなお未しの感あつたとはいえ、それなりに新しい史学に対する抱負がもられていたことは多しなればならぬ。

四月二九日(日) 文学部第八教室

論題 「ヨーロッパにおけるヒューマニズムの伝統」

古代におけるヒューマニズム 衣笠 茂
中世におけるヒューマニズム 兼岩 正夫
ルネサンスにおけるヒューマニズム

啓蒙思潮とヒューマニズム 永井 三明
社会主義とヒューマニズム 杉村 和子
日本 哲男

西洋史読書会例会 六月一日(金)

H. Nabolz, Zur Frage nach den Ursachen des Bauernkrieges 大島 隆雄

Wisn, Cuban Crisis as Reflected in New York Press 北村 彰一

西洋史読書会例会 六月二九日(金)

W. W. Tarn, Alexander's Deification 大牟田 章

A. H. Johnson, The Disappearance of Small Landowners 井上 明

Ch. Seignobos, L'organisation de l'opposition 和田 仁

地 理 学 関 係

人文地理学会第十五回例会 四月二十一日

(土) 立命館大学文学部

湖岸段丘と先史地理学的資料 堀江 正治
中国仏教における世界区分説 海野 一隆

人文地理学会第十六回例会 六月九日(土)

京都大学法経教室

紀川・吉野川流域の歴史地理学的研究

藤岡謙二郎・古川清・樋口節夫・小池

洋一・近藤忠・桑原公徳・松田信・中

野栄治・西村隆男・野田只夫・大島襄

二・佐々木高明・末尾至行・谷岡武

雄・浮田典良・山崎俊郎・矢守一彦

地理学関係の総合研究

本年度の文部省科学研究費—第一部史学（人文地理学）分野における総合研究は、京都大学教授藤岡謙二郎氏を中心とする国府の歴史地理学的研究と、広島大学教授米倉二郎氏を中心とする条里研究とが行われている。何れもその対象を日本全域にひろげ、各地の大学の専門家をひろく動員した劃期的な総合調査であり、その成果が期待されている。国府の調査についていえば、すでに伊勢国の第一回の実地調査が終り、近く若狭・越前・越中の調査が行われる予定である。条里調査もすでに摂津・三国等の地域に手がつけられた。

考古学関係

堀川高校運動場古墳の調査

二月二十日—三月五日京大考古学教室樋口隆康講師が同志社大学石部正志氏と共に京都市右京区嵯峨野広沢池西浦町にある横穴式石室古墳の一つを調査した。内部はすでに撈乱されていたが、遺物が三層以上の層序をもつて確認され、皇朝十二銭等の出土品によつて、この古墳が古墳時代末期か

ら奈良朝及びそれ以後にかけて、数回の埋葬に使用されたことが判明した。

大阪府茨木市安威・將軍山古墳の調査

三月二日より一箇月間。小林行雄講師を主任とし京大考古学教室員が参加した。古墳は三島野を見下す丘陵上につくられた全長約一〇〇米の前方後円墳で、長さ六・五米の堅穴式石室をもつ。古い盗堀によつて副葬品の一部をうしなつてはいたが、石室及び盛土に用いられた朱層の層位的な観察から、主体部の構築過程を明かにしたことは大きな成果であつた。

長岡京址の調査

四月初旬より一箇月間。乙訓郡向日町乙訓中学校の運動場拡張工事に伴つて宮址の一部が破壊されることとなり、樋口隆康講師が随時調査に赴いた。遺構としては約三〇米の敷石列が認められ、平安初期の重孤文及び蓮華文瓦、鴟尾等が出土した。

考古学協会春季総会及び大会

五月五・六日 立正大学
下野那須郡諸磯式文化の細別 渡辺 竜瑞
千葉県白浜町滝ノ口貝塚 野口 義磨
岩手県大船渡市清水及び長谷堂貝塚

西村 正衛
岩手県大船渡市赤崎町大洞貝塚の調査

江坂 輝弥
相模湯河原黒曜石採取遺跡
赤星 直忠
本邦出土硬玉製品に関する二三の問題

中川 成夫
栃木県古墳叢とその様相
川島 守一
茨木市將軍山古墳調査概報
小林 行雄
茨城県三昧塚古墳の調査
大塚 初重
但馬国日高町の馬場ヶ崎古墳
島田 清
古墳村落の研究
豊 元国

宮城県栗岡切谷廃寺跡の発掘

伊藤信雄・加藤孝
駿河国分寺跡の発掘
石田 茂作
北伊豆出土の白鳳・奈良兩期に於ける古瓦について

輕部 慈恩
橘寺の発掘調査
藏田 藏
経塚の營造について
三宅 敏之
青銅刀出土地をめぐる遺跡
柏倉 亮吉

三木 文雄
穿孔ある銅剣の特殊性
増田 精一
桃氏剣に関する一試論

梅原教授の最終講義六月二十八日（木）午前八時より京大文学部第一教室で、今年度の講義「考古学五十年」の最終回を終へられ

る。午後一時より第一教室で文学部主催の公開講義あり。「日本の古代文化」と題し二時間にわたつてこれまでの考古学の主要な業績を述べつつ、その欠陥をも指摘された。

考古学談話会

七月四日（水）午後三時楽友会館に二十三名が出席。梅原教授をかこむ最後の会として遠路参する人もあり。教授が「西洋の東洋学者」と題してベトリ、ペリオ、ミンス、チャイルド等、親しく学び接してきた人達を、その人間的な面から書簡などを示しつつ紹介された。

九州地方見学旅行

七月十日——十八日。学生指導の見学旅行として北九州の遺跡を巡る。一行は梅原教授ほか教室員、学生六名。（十日）京都発（十一日）宗像神社、宮地嶽神社（十二日）福岡県鞍手郡若宮町竹原古墳、嘉穂郡桂川町王塚古墳、筑紫郡筑紫野町五郎山古墳（十三日）都府楼址、国分寺址、水城址、大宰府神社、観世音寺（十四日）福岡県八女市吉田岩戸山古墳、八女郡広川町石人山古墳、久留米市高良山神籠石、高良神社

（十五日）福岡県浮羽郡吉井町日ノ岡古墳、月ノ岡古墳、珍敷塚古墳、鳥舟塚古墳、原古墳、（十六日）熊本県玉名市院塚古墳、石貫村穴観音横穴、ナギノ横穴群、玉名郡菊水町江田穴観音古墳、江田船山古墳（十七日）佐賀県東松浦郡玉島村谷口古墳、浜崎町横田下古墳（十八日）帰京

梅原教授の退官

梅原末治教授は八月十三日京都大学における大正三年以来四十三年間の学窓生活を終えられた。なお教授は八月十四日付で名誉教授になられた。

編集後記

秋風の吹きそめる候となり、ここに第五号をお送りする運びになりました。皆様お変わりなくお過しのことと存じます。

この夏は、大変な暑さでありましたが、世界の歴史はめまぐるしく動き、予期しない新しい事実が次々に人間の手によつて生み出されました。そこから、自分たちの生きていく国家・世界の真実をみつめ、その歴史をふり返ろうとする動きが、人々の内におこりつつあるように見受けられます。史林も、科学的な歴史学の方法にもとづいて、それに応えるだけの内容はもちたいものです。

（朝尾）

史 林 （第三九巻 第五号）

一九五六年八月二五日印刷
一九五六年九月一日発行
定価 百円

発行所 史 学 研 究 会

京都市左京区吉田本町
京都大学文学部内

理事長 原 随園
編輯主任 赤松 俊秀

印刷所 中村印刷株式会社
京都市下京区七条御所ノ内恵町三九